



## あかり木通信

2016年6月号  
あかり木診療所

「家庭的な雰囲気」を保てるように心がけているあかり木診療所ですが、時には家庭で親が子をしつけるように、厳しいことを言ってきたこともありま。言った後は、「わかっていただけたかな」「言わないほうがよかったかな」と後味が悪いものなのですが…。

### その① 中高生のひとり受診について

あかり木診療所では、高校生以下の受診は保護者の同伴を原則としています。症状によつては、検査や処置をおこなう場合がありますが、その必要性や危険性を理解し、立ち会っていただく必要があります。また、医療情報（病状の経過やこれまでの病歴、体質など）を正確に把握するため、治療方針を判断、決定するためにも、責任を持つて判断できる方の付き添いが必要です。子どものからだのことは、医者に丸投げという考えは誤りです。状況をよくわからずにお孫さんを連れていらっしやる祖父母の方にも同様をお願いしました。

### その② 病院巡りについて

他の病院にかかって治療中にもかかわらず、同じ症状で次々と病院を巡る方がいらつしやいます。診断結果はすぐには出ないこともありま。経過をみて次の方針を決定することもあります。継続して同じ病院にかかると、適切な治療を受けることができると考えま。疑問点はしっかりと聞いていただいて、信頼して継続した通院をしていただきたいと思います。

### その③ 静養について

具合がわるくて受診される方には、くすりの処方の有無にかかわらず、静養が必要な方にはその旨を伝えます。人には自然治癒能力があります。くすりは、その上に少し手助けが必要なときに処方されるものです。くすりをのみながら連れ回され、症状が悪化していらっしやる子どもには、気の毒になります。具合がわるいのに、「デイズニーランドに行くのでくすりをください」などのことばをきくと、がっかりしま。

### その④ 電話で医師の判断を仰ぐことについて

診療所に電話をかけて症状を話す方がいらつしやいます。しかし、医師は必ず診察をしてから判断をします。電話ではわかりま。また、電話を医師につないでくれといわれる方がいらつしやいます。診察中に医師が電話にでると、診察がストップしてしま。くすりをのんだあとじんましんができたといつて受診された方は、診察してみるとじんましんではなく別の病気だったということもありました。ご心配で電話をおかけになるのでしたら、受診してしっかりと診てもらいましよう。

### その⑤ くすりの処方がないことについて

くすりをください、とお越しくなつても、診察の結果、適切なくすりがない場合には、くすりをのむことよりも大切なことをご説明してま。下の欄を参照してください。

### なぜをひいたときに、「お風呂に入っているですか？」

と質問を受けることがあります。なぜをひいたときにくすりをのむことよりも大切なことは、体を冷やさないようにして、じゅうぶんに休養をとることです。これを守ることができれば、お風呂自体はどちらでもかまいません。気力がなくへトへトなのに無理にお風呂に入る必要もありませんが、ふとんの中で汗をかいた後などに、気分転換にお風呂であたたまることは効果的です。ただしこの場合でも、お風呂の前後ではあらかじめ部屋をあたたためておくなど体を冷やさないようにする工夫は必要です。なぜに限らず体調がすぐれないときには、まわりの環境や食べるものなどを工夫してくずれたからだの調子を整えることは、とても重要なことです。冬なのに、シャツ1枚と裸足にサンダルばきで「はなみずが止まらない」とか、便がゆるいのかき氷をたべて「下痢がひどくなった」とか、おなかの調子がわるいのにからあげを食べさせたら「吐いた」などと言ってお子さまをつれてくる方がいました。「せきが止まらない」と言いながらたばこを吸っているおとなの方も同じです。くすりをのむ前に見直してもらいたいことがあります。